

トゲウオ

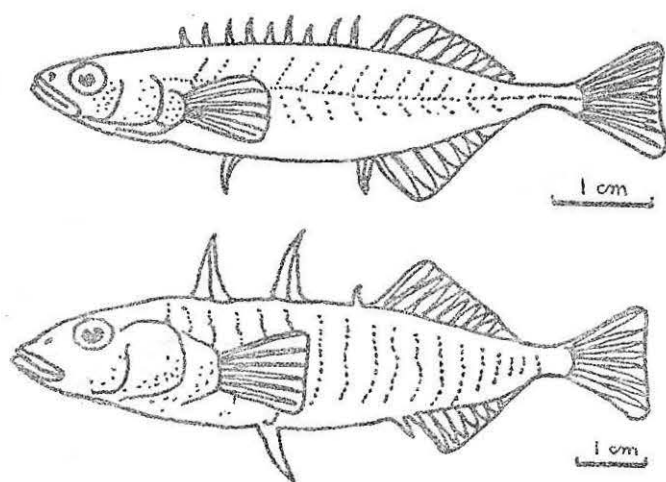
巣をつくる魚「トゲウオ」。自然史展示室「川の生き物」のコーナーには、このトゲウオの一種トミヨが泳いでいます。今月はトゲウオのなかまの「トミヨ」と「イトヨ」についてお話ししましょう。

- トゲウオのなかまは、名前から想像できるように、背や腹にひれが変形したトゲをもつ魚です。富山県には、湧水^{ゆうすい}地帯にすむトミヨと、いつもは海にいて卵を産むときだけ川をさかのぼるイトヨの二種のトゲウオがいます。トミヨには背に9本ほどのトゲがあるのに対してイトヨは3本なので区別できます。

トミヨは北海道から日本海ぞいに福井県まで分布し、富山平野では、黒部川や神通川・庄川・小矢部川などの湧水地帯にすんでいます。中でも、庄川が流れる高岡市中田地区の湧水地帯は、トミヨが

- 数多く生息し、富山県の天然記念物に指定されています。最近では、住宅の増加や農地整備などでトミヨの生息場所である湧水地帯が少なくなっていました。

トミヨの産卵期は2月から8月頃ですが、6月が最

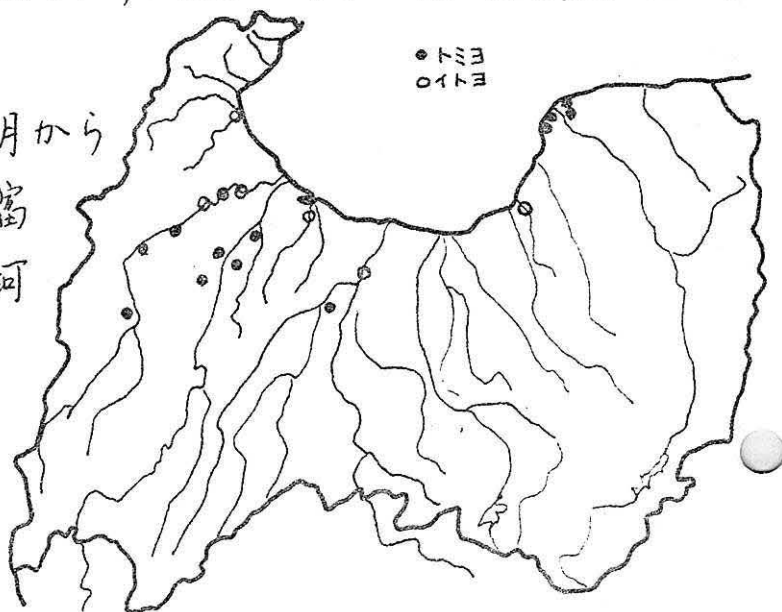


トミヨ(上)とイトヨ(下)

も盛んな時です。この頃にはオスはなめばりをつくり、あらゆるものを追いかめます。また、オスの体色も変化し、黒っぽくなります。イトヨの方はあざやかな赤味をおびますが、このような繁殖期の体の色を^{ニッケンイロ}婚姻色とよんでいます。巣はオスが水草の破片でつくります。

トミヨはたるのような形の巣を水面近くにつくるのに対し、イトヨは泥の上にくぼみをつくり、直接その上に巣をつくります。巣ができあがり、なめばりに卵を持った腹の大きなメスが近づくと、オスはジグザグダンスをくり返し、巣にさそいこんで産卵させます。メスは卵をうむとすぐ立ち去りますが、オスはひれて新鮮な水を巣に送り、卵に酸素を供給したり、近づいてきた他の魚を追いかって卵や子供を守ります。

イトヨの産卵期は4月から6月頃で、この頃には富山湾にそそぐすべての河川にのぼってくると考えられています。富山市内でも黒崎の小川などでその姿をみることがができます。



トミヨとイトヨの分布 - 富山県の陸水生物 (1978) 刊

富山市科学文化センター

〒930-11 富山市西中野町3丁目1番19号

TEL 富山 (0764) 91-2123

○附属天文台 富山市五福8番地

☎ (0764) 32-3334

○開館 午前9:00～午後4:30

最終プラネタリウム3:40より放映

○入館料 大人200円 小人100円

○休館日 月曜日・祝日

(ただし5月5日と11月3日は開館)